



でもまさか・娘がそのダイヤを 高値買い受けます』の店にもっていくなんて。

まさか・少し良いと言われていたものが、桁違いのトンでもなく良いものだったなんて。

まさかまさか・鑑定額を提示され、「怖い」と娘が即手放してしまうなんて。

そしてまさか・娘に渡す前にどうせなら私が売ればよかった」と一瞬であろうと邪な気持ち私の脳裏を横切るなんて。



今私の手元にはそのダイヤの鑑定書が残っています。ダイヤと一緒に渡さなかったという間抜けた豚サン族の行為のお蔭で、お義母さんがダイヤの持ち主だったので、証は残りました。決して順風満帆だったとは言えないお義母さんの人生の様々な場面で、あのダイヤは希望の光を与えてくれたのでしょね。

せめて鑑定書だけは大切に持ち続けようと思います。

あのダイヤもきっと今頃は、お義母さんと同じように、それを愛で必要としてくれる人の傍らで、一番の輝きを放っていることでしょう。それ等に免じて、どうか豚サン母娘の不始末をお許しください。今度こそ永遠の眠りが安らかでありますように、お詫びしつつお祈りいたします。

敬具